

外国人留学生の介護職員受入れ状況 アンケート結果について

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

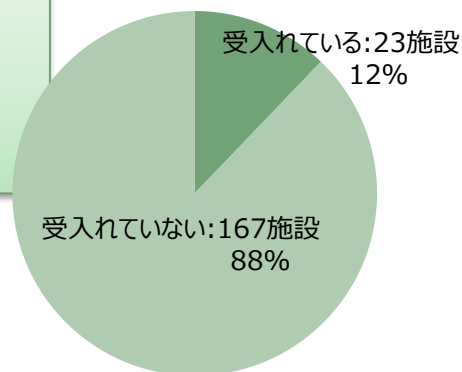
- 調査目的：在留資格「介護」の新設に伴い、外国人介護留学生の適正な受入れ体制の確保を図ることを目的として実施
- 調査方法：各施設にメールにて回答依頼し大阪府におけるインターネット上の専用ページにより回答
- 調査対象：大阪府内の介護老人福祉施設及び介護老人保健施設（662施設）
 - ・介護老人福祉施設（432施設）
 - ・介護老人保健施設（230施設）
- 調査期間：平成30年7月20日（金）～平成30年8月3日（金）
- 回答数：190施設（28.7%）

<本調査における外国人留学生の介護職員とは>

「出入国管理及び難民認定法」において、在留資格「介護」を取得している方や在留資格「留学」で来日している方を対象としています。EPAの制度や技能実習制度で受入れている方、また在留資格「日本人の配偶者等」や「永住者の配偶者等」における配偶者や子、その他の在留資格をお持ちの方は含みません。

質問1 外国人留学生の受入れ状況（施設数）

受入れている	受入れていない	合計
23	167	190



- ✓ 外国人留学生を受入れている施設は23施設。
回答のあった190施設の12%を占めている。
- ✓ 外国人留学生を受入れていない施設は、167施設。
回答のあった190施設の88%を占めている。

分析 I 回答率について

結果等

◆回答施設数：190施設 (28.7%)

介護老人福祉施設：132/432施設(30.5%)
介護老人保健施設：58/230施設(25.2%)

回答のなかった施設：472施設
(71.3%)
(調査対象施設：662施設)

分析

➤ 回答率が3割弱であったことから、アンケートの実施期間が短かったことや周知不足、また外国人留学生への関心の薄さや外国人留学生の雇用に係る制度が理解されていないこと等が考えられる。

<参考>

○「平成29年度介護労働実態調査「事業所における介護労働実態調査」結果より
(介護労働安定センター実施)

・有効回答率：49.8%

<介護労働実態調査>

調査：全国の介護保険サービス事業を実施する事業所のうちから無作為抽出
(18,000事業所)して実施。

うち有効調査事業所数：17,638事業所

有効回答：8,782事業所(有効回答率49.8%)

調査対象日：平成29年10月1日現在

調査実施期間：平成29年10月1日～10月31日

調査方法：事業所に対して調査票を郵送にて配布して郵送にて回収

・従業員の過不足数(介護職員のみ抜粋)

	①大いに不足	②不足	③やや不足	④適当	⑤過剰	①+②+③ (不足感)
大阪	14.8%	23.7%	35.1%	25.5%	0.9%	73.6%
全国	12.2%	23.3%	31.4%	31.9%	1.2%	66.9%

※回答事業所数(当該職種のある事業所数)：全国5,107事業所 大阪325事業所

分析Ⅱ 受入れ状況について

結果等

質問1 受入れ状況について
(回答のあった190施設のうち)

◆受入れ施設数: 23施設
(12%)

介護老人福祉施設: 20施設/432施設(4.6%)
介護老人保健施設: 3施設/230施設(1.3%)

◆受入れていない施設: 167施設
(88%)

分析

➤ 外国人留学生を受入れている施設は23施設で、21法人であった。

<参考>

- 「平成29年度介護労働実態調査」結果（介護労働安定センター）
・外国人（全ての外国人）を受入れている事業所数

	受入れている	受入れていない
大阪	51 (6.5%)	711(90.7%)
うち留学生、就学生	16(31.4%)	
全国	470(5.4%)	7,959(91.4%)
うち留学生、就学生	66(14.1%)	

※回答事業所数:全国8,707事業所 大阪784事業所

➤ 30年度の受入れ施設は、29年度より3施設増加している。
28年度：3施設 29年度：14施設 30年度:17施設

<施設ごとの受入れ状況内訳>

- ・28年度から30年度まで3年間継続して受入れている施設は、2施設
- ・28年度から29年度まで2年間継続して受入れている施設は、1施設
- ・29年度のみ受入れている施設は、5施設
- ・29年度から30年度まで2年間継続して受入れている施設は、6施設
- ・30年度から受入れている施設は、9施設

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (1) 外国人留学生の受入れ人数及び帰国等の人数 (国別) 23施設より回答あり

	国籍	ベトナム	フィリピン	中国	ネパール	韓国	台湾	ミャンマー	合計(人)
平成30年度採用	受入れ人数	30	2	5	5				42
	帰国者数	2		1					3
平成29年度採用	受入れ人数	30		9	1	2	1	2	45
	帰国者数	6		1					7
平成28年度採用	受入れ人数	4		2		1			7
	帰国者数	4							4

- ✓ 平成28年度以降、直近3年間の受入れ人数は、平成29年度が最多となっており、国籍も6カ国と一番多い。
- ✓ 平成29年度の受入れ人数は、平成28年度受入れ人数の約6.5倍と一挙に増加しているが、平成30年度は、若干減少している。
- ✓ 平成29年度からベトナムからの受入れ人数が急激に伸びている。
- ✓ なお、平成30年度に関しては、年度途中の集計のため、受入れ人数及び帰国者の人数は、今後変更することが見込まれる。
- ✓ 施設ごとの受入れ人数は、1人から11人と幅があった。

◆平成28年度から平成30年度まで
 ・受入れ人数合計：94人 ・帰国者数合計：14人

質問 2 (1) 施設ごとの受入れ人数の状況 (平成28年度から平成30年度) 参考

受入れ人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	8人	11人	合計
施設数	2	7	3	3	3	2	1	2	23
受入れ人数合計 () 帰国者等	2	14	9	12	15 (3)	12 (2)	8	22 (9)	94 (14)

分析Ⅱ 受入れ状況について

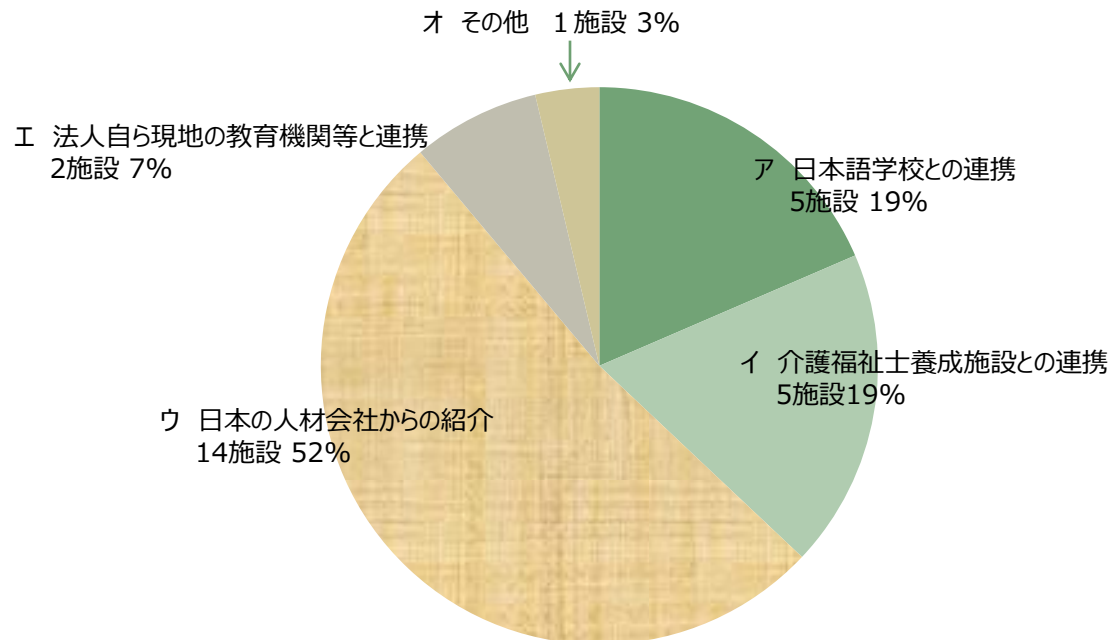
結果等	分 析
<p>質問 2</p> <p>◆受入れ人数について <23施設より回答あり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・28年度：7人 ・29年度：45人 ・30年度：42人 <p>◆受入国について <23施設より回答あり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・29年度6カ国⇒30年度4カ国 ・ベトナムからの受入れが最多 29年度:30人/45人 30年度:30人/42人 <p>◆施設ごとの受入れ人数の状況 <23施設より回答あり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人から11人と幅があった ・帰国者のあった施設数：4施設 帰国者数：14人 	<p>➤ 平成30年度の受入れ人数は、平成29年度より若干減少している。一方府指定の介護福祉士養成施設の留学生の在学数は増加している。 ⇒人数が減少している理由は不明であるが、今後年度途中に増加することも考えられる。 ⇒留学生のアルバイト先が介護施設でない場合もあると考えられる。 ⇒回答の無かった施設で受入れている可能性も考えられる。</p> <p><参考> 介護福祉士養成施設に在学する留学生の数は増加 ㊸121人⇒㊸262人 ※府指定の介護福祉士養成施設（昼間課程）の調査結果（H30.5）</p> <p>➤ 30年度は、ベトナム、フィリピン、中国、ネパールの4カ国からの受入れがあった。フィリピンからの受入れは初めてであった。</p> <p><参考> 介護福祉士養成施設に在籍する留学生の国は増加 ㊸6カ国⇒㊸10カ国 ※府指定の介護福祉士養成施設（昼間課程）の調査結果（H30.5）</p> <p>➤ 4施設で帰国者があり、受入れ人数が11人の施設で<u>9人</u>、6人の施設で<u>2人</u>、5人の施設で<u>3人</u>の帰国者等があった。</p>

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (2) 外国人留学生の受入れ方法 (2 3 施設より回答あり)

	項 目	施設数
ア	日本語学校との連携	5
イ	介護福祉士養成施設との連携	5
ウ	日本の人材会社からの紹介	14
エ	法人自ら現地の教育機関等と連携	2
オ	その他 (近隣大学からの受入れ)	1
	合 計	27

- ✓ 日本の人材会社からの紹介が、14施設と最多であった。
- ✓ 日本語学校及び介護福祉士養成施設との連携、日本の人材会社からの紹介と3項目の受入れ方法を取っていた施設は、1施設であった。
- ✓ 日本語学校との連携、法人自ら現地の教育機関等と連携して受入れていた施設は、2施設であった。



外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (3) ①-1 入国にあたり必要な経費支弁の支援等状況 (18施設より有効回答あり)

	項 目	施設数
ア	施設が支援（貸付）	5
イ	施設が支援（給付）	4
ウ	本人・親・親族等が負担	14
エ	その他	0
	合 計	23

※施設からの回答数と項目ごとの施設回答数の累計は一致しない

- ✓ 本人・親・親族等が負担しているケースが、14施設と最多であった。
- ✓ 施設が貸付及び給付したケースは、2施設であった。
- ✓ 施設が貸付、給付に加えて本人・親・親族等が負担したケースは、3施設であった。
- ✓ 施設が貸付及び本人・親・親族等が負担していたケースは、2施設であった。

質問 2 (3) ①-2 経費支弁以外で入国にあたり施設が支援した経費及び本人等負担額 (4施設より有効回答あり)

項 目	内 容	金額（千円）
施設が支援（貸付）した内容と金額	飛行機代等	80
施設が支援（給付）した内容と金額	渡航費	25・50・100
	祝い金	25
	生活準備金等	100・143
	健康診断費・コンサルタント費用	49・270
本人・親・親族等が負担した内容と金額	生活費等 渡航費用など（金額は不明）	10 -

- ✓ 施設が支援（貸付又は給付）している件数は、4施設であった。
- ✓ 本人が負担している内容・金額に関しては、施設で把握していないという回答があった。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問2 (3) ②-1 日本語学校の選考料・入学金・授業料等に必要な経費の支援等状況

(10施設より有効回答あり)

項目	支援・負担等	施設数	金額 (千円)	※その他の項目
選考料	施設が支援 (貸付)	3	20	
	施設が支援 (給付)	2	80・220	
	本人負担	-	-	
入学金	施設が支援 (貸付)	4	60・80・100・200	
	施設が支援 (給付)	1	280	
	本人負担	-	-	
授業料	施設が支援 (貸付)	6	360・600・620 1,050・1,240	
	施設が支援 (給付)	1	360	
	本人負担	1	60	
その他※	施設が支援 (貸付)	3	100・154・200	教材費等
	施設が支援 (給付)	-	-	
	本人負担	-	-	
上記の項目ごとに 分けていない場合	施設が支援 (貸付)	5	120・300・800	
	施設が支援 (給付)	-	-	
	本人負担	1	300	

- ✓ 施設が支援 (貸付) している内容で1番多いのが、授業料で6施設、続いて入学金で4施設であった。
- ✓ 施設が支援 (給付) している内容で1番多いのが、選考料で2施設であった。
- ✓ 本人が負担している金額に関しては、施設で把握していないという回答があった。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問2 (3) ②-2 日本語学校在学中に必要な選考料・入学金・授業料等以外の必要な経費の支援等状況 (②-1以外) (6施設より有効回答あり)

項目	支援・負担等	施設数	1年間金額 (千円)	※その他の項目
居住費	施設が支援 (貸付)	2	180・240	
	施設が支援 (給付)	6	72・228・240 324・420・720	
	本人負担	1	24	
食費	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	-	-	
	本人負担	2	480・600	
通学費	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	2	74・100	
	本人負担	1	156	
その他※	施設が支援 (貸付)	1	60	光熱水費、国民健康保険代等
	施設が支援 (給付)	4	12・152 156・180	光熱水費、通信費等
	本人負担	1	72	光熱水費、国民健康保険代等
上記の項目ごとに分けていない場合	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	1	228	
	本人負担	1	156	

- ✓ 施設が支援 (給付) している内容で1番多いのが、居住費で6施設、続いてその他が4施設であった。
- ✓ 居住費については、施設が支援 (貸付) しているケースも2施設であった。
- ✓ 本人が負担している金額や項目に関しては、施設で把握していないという回答があった。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (3) ③-1 介護福祉士養成施設の選考料・入学金・授業料等に必要経費の支援等状況
(3施設より有効回答あり)

項目	支援・負担等	施設数	金額 (千円)	※その他の 項目
選考料	施設が支援（貸付）	—	—	
	施設が支援（給付）	—	—	
	本人負担	—	—	
入学金	施設が支援（貸付）	—	—	
	施設が支援（給付）	1	200	
	本人負担	—	—	
授業料	施設が支援（貸付）	—	—	
	施設が支援（給付）	1	3,600	
	本人負担	—	—	
その他※	施設が支援（貸付）	—	—	—
	施設が支援（給付）	—	—	—
	本人負担	—	—	—
上記の項目ごとに分けていない場合	施設が支援（貸付）	2	1,200	
	施設が支援（給付）	—	—	
	本人負担	2	800	

- ✓ 入学金及び授業料を支援（給付）している施設が、1施設であった。
- ✓ 選考料・入学金等項目毎に分けていないが、施設で支援（貸付）しているケースと本人が負担しているケースが、各々2施設であった。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (3) ③-2 介護福祉士養成施設の在学中に必要な選考料・入学金・授業料等以外の経費の支援等状況 (③-1 以外) (2 施設より有効回答あり)

項目	支援・負担等	施設数	1年間金額 (千円)	※その他の項目
居住費	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	1	720	
	本人負担	-	-	
食費	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	-	-	
	本人負担	-	-	
通学費	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	-	-	
	本人負担	-	-	
その他※	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	1	180	通信費、光熱水費
	本人負担	-	-	
上記の項目ごとに 分けていない場合	施設が支援 (貸付)	-	-	
	施設が支援 (給付)	-	-	
	本人負担	1	1,020	生活費

- ✓ 居住費及びその他について、施設が支援 (給付) しているケースが、1施設であった。
- ✓ 居住費・食費等項目を分けていないケースで、本人負担が1施設であった。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問（４）①介護福祉士修学資金貸付制度の活用（３施設より有効回答あり）

	項目	施設数
	活用している	3

質問（４）②介護福祉士修学資金貸付の連帯保証人

	項目	施設数
ア	法人	3
イ	法人の役職員	0
ウ	その他（具体的記載なし）	1

- ✓ 介護福祉士修学資金貸付制度を活用している施設は、3施設であった。
- ✓ 1施設の連帯保証人に関しては、具体的な記載が無かった。

分析Ⅲ 介護福祉士修学資金貸付の連帯保証人について

結果等	分析
質問 2（４） ◆3施設が活用	▶ 3施設3法人で法人が連帯保証人となっていた。 <参考> 平成30年度大阪府内の介護福祉士修学資金貸付の貸付状況（H30.8.17時点） （大阪福祉人材支援センターより） ・貸付実績110人（保証人：個人43人・法人67人） ・法人保証を行った法人数： 社会福祉法人7法人 医療法人3法人 営利法人10法人

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (5) 外国人留学生の受入れにあたっての課題 (10施設より回答あり)

	項目	内容
ア 入国までの期間	受入れるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設で働く職員の受入れの理解や人権教育。 ・入国管理局の審査。 ・想定していたより日本語力が低い学生がいる。こちらの条件が正しく伝わっていない場合がある。 ・職員への周知と受入れ対応、言葉の問題（N4レベル）、新たな指導等追加業務への負担など。 ・寮の確保、受入れにあたっての費用（健康診断費用、渡航費用など）。 ・学費の負担を法人ですることについての法人内の同意を取り付ける過程において理解を得るだけの根拠の提示 ・入国の飛行機の確保。賃貸アパートの選定、生活必需品の準備。住民票登録や日常生活の決まり事への指導。 ・途中でリタイアする可能性があること。 ・制度的に何度も入国が延期になったので、本当に日本へ入国できるのかと受入れのモチベーションが下がった。
	今後受入れを進めるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートできる職員を複数養成。 ・条件を正しく留学生が認識できるよう、留学生への説明等を正しく行えるエージェントの選定。 ・アルバイトを始めるにあたっての基本的な日本語の習得。 ・日常の会話ができる語学力があるか（入国時は、ほぼコミュニケーションがとれないため筆談や翻訳アプリを使用する状態）。 ・現在受入れている外国人留学生の育成、成長によって法人内でのさらなる受入れを歓迎する機運となるかどうか。 ・途中でリタイアする可能性があること。 ・入国するまでの日本語能力の向上。 ・よりよい学カレベルや日本語力が高い人材の獲得ルートを探す必要がある。（試験合格が必要となるため）

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (5) 外国人留学生の受入れにあたっての課題 (1 1 施設より回答あり)

	項 目	意見等
イ 日本語学校入学から卒業までの期間	受入れるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当施設では派遣会社の紹介で外国人留学生に就業していただいています。日本語学校の授業予定やビザの手続きなどにより、急遽仕事を休むこともあるため、仕事の役割分担に苦慮する部分があります。 ・英語ができない留学生に対するコミュニケーション。 ・ホームシックにかかる、遊ぶことばかり考えていて、学校や仕事を休んだり集中しないといった、留学生がいる。奨学金等が利用できないため、週28時間のアルバイト代だけでは生活が苦しい。 ・日本語で業務の説明を行うも、理解が難しいことが多かった。言葉の説明や、日本語独特の言い回しの説明、母国語の翻訳等、本来業務以外の労力を要する。また、どこまで理解されたのかがあいまいなことが多く、双方が不安に感じるがあった。 ・日本語の上達に沿ったOJTを現場職員に負担を少なくお願いするためのカリキュラムの作成。 ・日本語学校と就業時間との調整。 ・途中でリタイアする可能性があること（日本の社会・文化との不適合や、家族の問題、アルバイトとの両立が困難など）、言語の習得が難しく介護福祉士養成校に進学できるレベルに至らない可能性があること、勉強への動機づけ。 ・周囲にベトナム人がいないため、文化の違いやどこまで日本語が通じるのか、担当者からの指導を受入れてもらえるのか不安だった。
	今後受入れを進めるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生・派遣会社・日本語学校との連携を密に行っていく。 ・ベトナム人の通訳を1名雇用したが、今後、ベトナムからの介護人材に陰りが出た場合、新たな通訳が必要。 ・メンタルフォローするための体制構築。日本の文化・慣習・一般常識への理解を促すための体制構築。 ・利用できる公的奨学金の利用や法人負担での生活フォロー（時給アップ等を含む）が必要。 ・ベトナム人留学生の先輩に中心的な存在、役割を担ってもらい、継続的な受入れが出来るかどうか。 ・日本語検定に合格できるか。 ・日本の生活に馴染んで介護現場にも慣れて1年で介護福祉士養成校に進んでももらえるだけの日本語力が身につけられるかどうか。 ・途中でリタイアする可能性があること（日本の社会・文化との不適合や、家族の問題、アルバイトとの両立が困難など）、言語の習得が難しく介護福祉士養成校に進学できるレベルに至らない可能性があること。 ・本人たちの学校と仕事との両立、健康管理。 ・勉強への動機づけ、介護福祉士養成校の外国人枠が狭き門となりつつあること。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問2（5） 外国人留学生の受入れにあたっての課題（8施設より回答あり）

	項目	意見等
ウ 介護福祉士養成施設入学から卒業までの期間	受入れるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の受入れ体制の整備。 ・途中でリタイアする可能性があること（介護職に対する不適合、日本の社会・文化との不適合や、家族の問題、特に実習期間はアルバイトとの両立が困難など）。 ・学業と仕事の両立の支援。 ・アルバイト勤務にあたり受入する現場の理解、コミュニケーションがとれるか。 ・日本人と一緒に授業を受けるため、授業について行き、理解できるのか（難しい専門用語、話すスピード等）。
	今後受入れを進めるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来春、既に雇用している者が2名進学するのと、受入れ予定が1名いるが、その者達が、学業と仕事を両立させられるか。 ・介護業務に携わるにあたりどのぐらい語学力があるか。 ・介護福祉士養成校でのカリキュラムについていけるだけの日本語スキルを身につけることが可能かどうか。 ・途中でリタイアする可能性があること（介護職に対する不適合、日本の社会・文化との不適合や、家族の問題、特に実習期間はアルバイトとの両立が困難など） ・ある程度のベトナム語を話せる職員の確保。 ・アルバイト勤務にあたり受入する現場の理解、コミュニケーションがとれるか、介護福祉士試験合格対策（平成33年卒以降は在留資格に係るため） ・本人たちの理解度によって指導方法を考えていく。 現在受入れている留学生以外の学生が実習に来た際、対応できるのか。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問2 (5) 外国人留学生の受入れにあたっての課題 (6 施設より回答あり)

	項目	意見等
工 介護福祉士養成施設卒業以降	受入れるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・果たして、現実的に何年間勤務してくれるかが不確定。 ・住居の準備、暮らしが軌道に乗るまでのメンター機能、コミュニケーションが十分に取れるかどうかの不安、受入れに対する現場の理解と体制、日本の労働慣習に対する文化的なギャップ（休みの取り方・連絡の入れ方）。 ・銀行口座の開設に始まり、住居の準備、暮らしが軌道に乗るまでのメンター機能、受入れに対する現場の理解と体制、日本の労働慣習に対する文化的なギャップ（休みの取り方・連絡の入れ方）。 ・介護福祉士の資格を取得できるのか。
	今後受入れを進めるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に人材が獲得できるかどうか。 ・就労ビザに移行した後、法人に何年ほど勤める意向があるか。 ・日本人職員と同等に働くだけの実力をつけていただくための研修カリキュラムの構築。 ・銀行口座の開設に始まり、住居の準備と生活用品の準備、暮らしが軌道に乗るまでのメンター機能、受入に対する現場の理解と体制、日本の労働慣習に対する文化的なギャップ（休みの取り方・連絡の入れ方）、生活準備のための貸付制度。 ・日本語を話すことはある程度できると思うが、筆記できるのか、資格が取得できない場合どうなるのか。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問 2 (5) 外国人留学生の受入れにあたっての課題 (1 1 施設より回答あり)

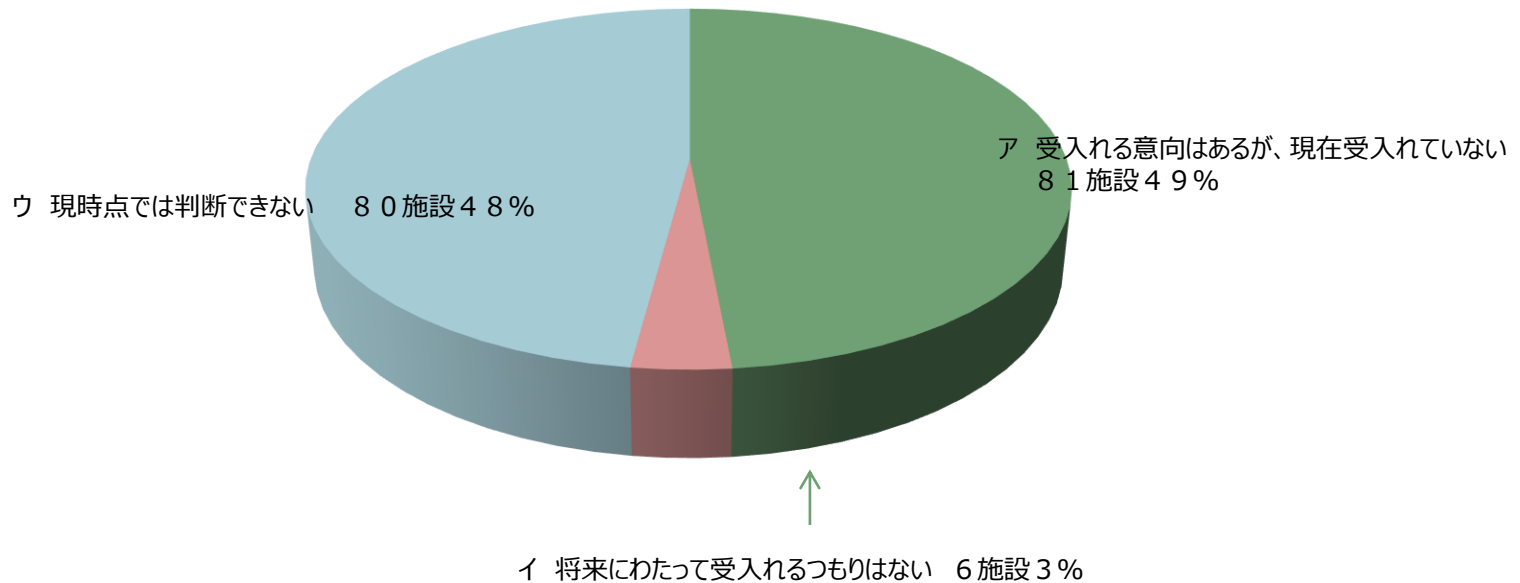
	項 目	意見等
オ その他	受入れるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当施設では、近隣大学の留学生が自主的に介護職員に応募してくれたため、特に大きな支障はありませんでした。 ・日本語が上手い子がいたので、その子に難しい日本語などを通訳してもらっていたが、入職の順番や年齢などのプライドがあるみたいで、通訳している時の雰囲気あまり良くないと感じる事がありました。そのあたりが今後の課題です。 ・生活環境面の整え（日本に少しでも長く生活できる環境作り）。 ・当法人は、学業と職務の両立のために、ベトナム人通訳を1名雇用したが、その者を入国許可頂けるのに半年かかった。 ・一度受入れを経験すれば、問題なく進められそうな感触はあります。 ・銀行口座の開設に始まり、国によってビザの申請-受理までの期間が読み辛いこと、雇用関連の提出書類に難しい日本語が多いこと、外国人可能な寮の準備、初めてのこともあり何を特に説明すべきか不明だったこと。 ・介護現場スタッフの協力体制が不可欠である。幸い、当施設では、うまくできている。 ・看護師を目指す留学生を、資格取得までの期間、施設で介護職員として受入れている。資格取得後は法人の病院で勤務。課題：介護職員として働ける期間が短い。 ・通勤方法（切符の購入、電車の乗降車など）や体調不良時の通院の仕方等どのように指導すればいいのか。留学生に伝わる、かつ、正しい日本語を担当者は話せるのか。
	今後受入れを進めるにあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、他施設で取り組まれておられる外国からの留学生受入れのための現地視察・現地機関との調整・来日後の受入れ体制・多大な受入れ費用などについて検討したうえで、取り組みたいと思います。 ・今後は技能実習生の受入れをしていくので、留学生の受入れは考えていません。 ・インドネシア等の受入れを考えていくには、イスラム教への対応が必要となる。 ・トータルで法人が負担する手間やコストを鑑みれば、留学生制度が有効かどうかは、継続検討していきたい。 ・日本人職員の外国人を受入れることへの理解。多文化共生の理念を法人全体で発信していくことが大切。 ・例えば帰国・帰宅するだけでも片道3日かかる外国人職員もいることから一定の連続休暇は仕方ないものの、日本職員との平等性・納得性をどう合意形成していくのか。 ・施設としては継続して受入れを行いたいですが、病院が外国人看護師の受入れ限度に達した場合に、受入れが出来なくなる。 ・もし、体調を崩して受診を促したが、留学生の日本語レベルでは症状が説明できない、治療費が出せないとされた、等の場合どうすればいいのか。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問3 受入れていない施設の状況（167施設）

	項目	施設数	
ア	受入れる意向はあるが、現在受入れていない	81	⇒質問4へ（下記）
イ	将来にわたって受入れるつもりはない	6	⇒質問5へ（P21へ）
ウ	現時点では、判断できない	80	⇒質問6へ（P22へ）

◆外国人留学生を受入れていない施設の状況



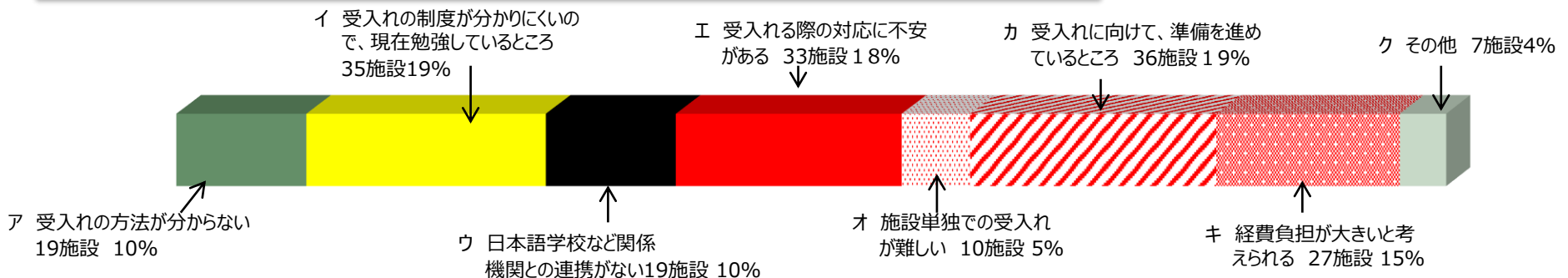
外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問4 質問3において、「ア 受入れる意向はあるが、現在受入れていない」と回答した理由
(81施設が回答、複数(186)回答)

	項目	施設数
ア	受入れの方法が分からない	19
イ	受入れの制度が分かりにくいので、現在勉強しているところ	35
ウ	日本語学校など関係機関との連携がない	19
エ	受入れる際の対応に不安がある	33
オ	施設単独での受入れが難しい	10
カ	受入れに向けて、準備を進めているところ	36
キ	経費負担が大きいと考えられる	27
ク	その他	7

- ・法人全体では受入れているが、当事業所では受入れていない。
- ・開設して間もないため、しばらくは現状のスタッフで基盤固めをしたいと考えている。
- ・欠員状態であるため、一定のケアレベルを求めることになり、言葉の壁が生じることを懸念。
- ・受入れにあたって、粗悪な送り出し機関や受入れ機関の見分けがつかないこと等様々な状況が想定される。
- ・将来的に受入れ予定。 等

- ✓ 「受入れに向けて、準備を進めているところ」が、36施設と最多となっており、今年度中に受入れ予定の施設も複数ある。
- ✓ 続いて、「受入れの制度が分からないので現在勉強しているところ」が35施設となり、「とにかく早急に知識等を深めたい」や「ここ2年の深刻な求人難から前向きに考えている」等の意見があった。
- ✓ 「受入れる際の対応に不安がある」が33施設と続いており、「担当者の業務負担への懸念」や「長期的な見通しが見えない」等の意見もあった。



分析Ⅳ 「受入れる意向はあるが、現在受入れていない」と回答した理由

結果等	分 析																																	
<p>質問4 アと回答した理由 (複数回答)</p> <p>◆ 81施設より 186回答あり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「受入れに向けて準備を進めているところ」と回答した施設が最多で36施設あった。並行して、「受入れる際の対応に不安がある」と回答した施設が6施設、「受入れの制度が分かりにくいので、現在勉強しているところ」と回答した施設が6施設、「経費負担が大きいと考えられる」と回答した施設が5施設あった。 ➢ 「受入れの制度が分かりにくいので、現在勉強しているところ」と回答した施設が35施設あった。並行して、「受入れる際の対応に不安がある」と回答した施設が22施設、「経費負担が大きいと考えられる」と回答した施設が、17施設あった。 ➢ 「受入れる際の対応に不安がある」と回答した施設は、33施設あった。並行して、「受入れの制度が分からないので、現在勉強しているところ」と回答した施設は、22施設。「経費負担が大きいと考えられる」と回答した施設は、22施設あった。 ➢ 「経費負担が大きいと考えられる」と回答した施設は、27施設であった。 <p><参考></p> <p>○「平成29年度介護労働実態調査「事業所における介護労働実態調査」結果より（介護労働安定センター実施） ・外国人労働者を活用する予定について（ ）は、事業所数</p> <table border="1" data-bbox="673 968 1846 1286"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">活用する 予定は ある</th> <th colspan="6">活用方法（複数回答）</th> <th rowspan="2">活用する 予定は ない</th> </tr> <tr> <th>EPAによ る受入れ</th> <th>技能 実習生</th> <th>日系人</th> <th>留学生・ 就学生</th> <th>その他</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大阪</td> <td>18.4% (144)</td> <td>35.4% (51)</td> <td>46.5% (67)</td> <td>34.7% (50)</td> <td>29.2% (42)</td> <td>17.4% (25)</td> <td>4.9% (7)</td> <td>77.7% (609)</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>15.9% (1,384)</td> <td>39.5% (547)</td> <td>51.9% (718)</td> <td>28.2% (390)</td> <td>25.3% (350)</td> <td>17.1% (237)</td> <td>4.2% (58)</td> <td>80.1% (6,974)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※回答事業所数:全国8,707事業所 大阪784事業所</p>		活用する 予定は ある	活用方法（複数回答）						活用する 予定は ない	EPAによ る受入れ	技能 実習生	日系人	留学生・ 就学生	その他	無回答	大阪	18.4% (144)	35.4% (51)	46.5% (67)	34.7% (50)	29.2% (42)	17.4% (25)	4.9% (7)	77.7% (609)	全国	15.9% (1,384)	39.5% (547)	51.9% (718)	28.2% (390)	25.3% (350)	17.1% (237)	4.2% (58)	80.1% (6,974)
	活用する 予定は ある			活用方法（複数回答）							活用する 予定は ない																							
		EPAによ る受入れ	技能 実習生	日系人	留学生・ 就学生	その他	無回答																											
大阪	18.4% (144)	35.4% (51)	46.5% (67)	34.7% (50)	29.2% (42)	17.4% (25)	4.9% (7)	77.7% (609)																										
全国	15.9% (1,384)	39.5% (547)	51.9% (718)	28.2% (390)	25.3% (350)	17.1% (237)	4.2% (58)	80.1% (6,974)																										

質問5 質問3において、「イ 将来にわたって受入れるつもりはない」と回答した理由（6施設が回答）

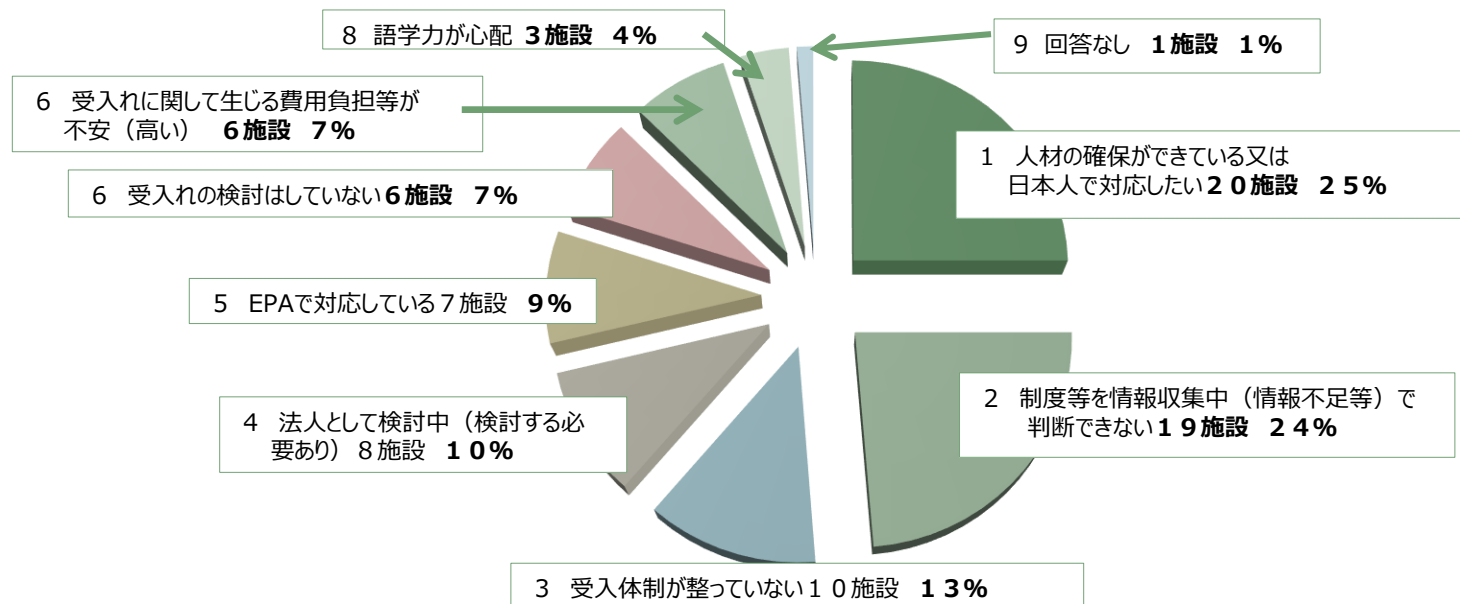
- 同じ日本人でも指導等で悩むことも多いので、出来たらご利用者様に指導時間に要する時間を費やしたいとの意向が大多数であったため。
- 細かな言葉のニュアンス等を読み取って処遇を変化したり。という臨機応変さができないため。
- 外国人技能実習生を受入れを本年10月より開始するため。
- 理事会において、日本人スタッフでの職員確保を目指す確認を行っているため。
- 現在介護職員が過剰であり、数年内に閉院予定のため（敷地移転に伴い）。
- 併設型の小規模法人であり、日中・夜間とも職員数が少なく、指導する時間的な余裕がないと思われるため。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問6 質問3において、「ウ 現時点では判断できない」と回答した理由
 <主な理由で項目分け> (80施設が回答)

	項目	施設数
1	人材の確保ができている又は日本人で対応したい	20
2	制度等を情報収集中（情報不足等）で判断できない	19
3	受入れ体制が整っていない	10
4	法人として検討中（検討する必要あり）	8
5	EPAで対応している	7
6	受入れの検討はしていない	6
6	受入れに関して生じる費用負担等が不安（高い）	6
8	語学力が心配	3
9	回答なし	1

- ✓ 「人材の確保ができている又は日本人で対応したい」が、20施設と最多となっているが、「今後の状況により検討する余地はある」という意見等があった。
- ✓ 続いて、「制度等を情報収集中（情報不足等）で判断できない」は、19施設。「先行事例が少ない」や「推移を見守ってから判断したい」という意見があった。
- ✓ 「受入れ体制が整っていない」は、10施設。受入れに関して、「住居や文化面での対応が課題」という意見等があった。



外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問6 質問3において、「ウ 現時点では判断できない」と回答した理由 (80施設が回答)
 <具体的な理由抜粋>

	項目	施設	主な理由
1	人材の確保ができて いる又は日本人で対 応したい	20	<ul style="list-style-type: none"> ・施設基準以上の職員数を確保できている為。 ・出来る限り、外国人留学生に頼らなく運営していきたい。ただ将来必要性が出てくる可能性はおおいに考えられる。 ・可能な限り外国人雇用はせず入居者の処遇にあたりたいが、人員の確保が困難であれば検討する余地はあると考えているため。 ・現状は受入れなくても、人員確保出来ているのと、受入れによってデメリットが分からない為。 ・現役並みの高齢者の就業や雇用、育児中の若い世代や専業主婦などへ余暇時間を利用した短時間の就労等の働き方の支援と社会資源の活用に取り組んでいます。 ・現在は日本人職員で充足している為。
2	制度等を情報収集 中（情報不足等） で判断できない	19	<ul style="list-style-type: none"> ・制度的に始まったばかりであり、費用的にも少なからずかかるものなので、その推移を見守ってから判断したい。 ・先行事例が少ない。あまりいい情報を聞かない為。 ・介護職員不足の観点から、将来的には必要と考えるが、現時点では外国人介護職員の動向等の情報を収集する事が先決と考える。外国人の場合、日本語の読み書きに問題なければ良いが・・・ ・受入れ方法や受入れ体制の構築など、制度についての知識不足があります。受入れるのであれば、説明会等に参加し、ソフト面、ハード面共に体制を作っていく必要があると考えています。 ・外国人留学生を受入れることにより、利用者の方へのサービスの質を維持・向上できるかどうか、判断ができません。
3	受入れ体制が整って いない	10	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生を受入れられる体制が整っていない。 ・在留資格の問題、外国人を受入れ、それを指導する体制が整わない、結局利用者が我慢することになる。利用者にとってメリットが少ない。 ・受入れ体制の整備が難しい。（宗教の対応、住居等）経費負担が大きい。 ・職員が抱えている業務が多すぎて受入れに対する対応、指導が十分にできない。

外国人留学生の介護職員受入れ状況の結果について

質問6 質問3において、「ウ 現時点では判断できない」と回答した理由 (80施設が回答)

<具体的な理由抜粋>

	項目	施設	主な理由
4	法人として検討中 (検討する必要あり)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・当グループ全体での検討事項でありますので、当施設単位での判断が出来ないため。 ・法人全体で検討中のため。 ・施設として現時点では、会話スキルも含めて即戦力としての介護スタッフを求めているが、将来的にどうなるかは法人全体で検討していくことになると思う。
5	E P A に対応している	7	<ul style="list-style-type: none"> ・現状ではEPAを推進しており、それもフィリピン人介護士で統一している状態です。ここに他国の方を、しかも別系統で受入れた場合の反応が読めません。また、法人で確保している宿舎も限界状態です。 ・E P A 制度で受入れを積極的に行っているため。 ・EPAの制度、技能実習生の制度、留学生の制度を総合的に比較する必要があると考えてはいるが、一般的にはEPAの制度以外は始まったばかりで情報量が少なく、一概には比較できないため。 ・現在 E P A 制度を利用しているが、今後は技能実習制度にするか留学生を受入れするか方向性が定まっていない。外国人の雇用は必要なので状況を見極めながら検討する。
6	受入れの検討はしていない	6	<ul style="list-style-type: none"> ・初期投資の費用が、不明瞭（住宅問題、日本語学校の問題等）で現時点では、検討すらしていない為。 ・現段階では、検討段階にも無い。受入れる為の見通し及び、職場の環境整備が不十分。 ・現在受入れ体制を整える計画・予定がないため。 ・現在、外国人技能実習生の受入れ準備をしている。留学生については、週の労働できる時間が短いことが一番の懸念材料である。
6	受入れに関して生じる費用負担等が不安（高い）	6	<ul style="list-style-type: none"> ・経費負担及び受入れに要する労力が大きく、施設に定着しない可能性がある。 ・費用面(学費、居住費、通勤費)の問題、その他人材の管理に不安。 ・費用対効果等、現時点でそこまでの情報が把握できていません。手間暇が多いような印象を持っています。将来的にはそういった取り組みも必要かと考えています。
8	語学力が心配	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生の、語学力（読む、聞く、書く）が不明であり、利用者様に不利益となる事例が想定できない為。 ・言葉の問題に心配がある。